

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372400954		
法人名	社会福祉法人 熊本東翔会		
事業所名	グループホーム たいめい苑		
所在地	熊本県玉名市岱明町古閑388番地		
自己評価作成日	令和元年 10 月 3 日	評価結果市町村報告日	令和元年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和元年10月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・グループホームの取り組みとして、認知機能へのアプローチを実践している。認知機能へ働きかける事で残存機能を活用する事ができ、ADLの向上や質の高い生活の実現が可能となる。
 ・研修: 新任研修、現任研修、外部研修の参加等、職員のスキルアップの為の取り組みに努めている。
 ・連携: 同敷地内にある特定施設事業所と連携し、応援体制の確保や待機者の情報を共有することで申し込みをされている方が待機期間を短縮できるよう取組んでいる。
 ・接遇: 入居者おひとりおひとりをかけがえのない存在としてホスピタリティ豊かなケアに努めている。
 ・自己決定: 自宅のように安心して生活できるように自己選択、自己決定を尊重し、主体は誰なのかを考え、その人らしさを大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

認知機能へのアプローチとしてアクティビティに取り組んでいる事業所では、今までの生活の継続性を大切にし、出来る間は出来ることをやって頂く姿勢でケアに取り組まれている。職員面談では、理念への理解が深く、それぞれの学びとそれを活かし入居者に向かう姿がうかがえた。法人の中での他部署との連携もあり、理学療法士や歯科衛生士も関わり・アドバイスで入居者の生活の支援を行っている。入居者家族の関わりも以前からよく見られ、家族との外出で楽しむ時間を持ったり、趣味にふれあう居室作りにと、協力しあえる様子も見られた。今後も入居者それぞれの「毎日のくらし」を大切にされたケアに期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月第1水曜日に部会を開催している。参加者で理念の唱和を行い、日頃のケアの振り返りを行っている。	法人基本理念の柱である「誰もがその人らしく幸福に生きる」は職員に浸透しており、毎月の事業所会議で唱和、またケアについての振り返りの機会を持っている。入職時には理念について時間をかけ具体的内容で研修が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年2回春と秋の公役に参加している。また、当施設において地域の民児員の方々と意見交換会を行っている。	町民も集う公園に隣接しており、日頃の散歩や夏祭りなどで入居者と地域住民との関わりが行われている。地域との交流や高齢者支援は法人全体で取組まれている。	法人・事業所で地域に密着した関係や認知症予防・啓発等の様子がうかがえましたが、入居者と地域の日常的な交流が継続するための取組みに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の通いの場などからの依頼で認知症についての勉強会に出張している。今年度は敬老の日の敬老会で認知症についての勉強会に出向いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に開催しており、開催月に合わせた議題で報告を行っている。参加者からの要望も発表に取り入れ、サービスの質の向上に取組んでいる。	運営推進会議では事業所・入居者の報告だけでなく、意見交換も活発に行われている。家族代表の意見により、家族の交流の場を増やし茶話会やお菓子作りを開催する等、日々の活動も取入れられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも玉名市役所の高齢介護課から参加を頂き、グループホームの取り組みや実情の報告を行い、関係性の構築に努めている。	市で認知症予防や啓発への取組みが行われており、公民館活動や行方不明者発見訓練、ひと声運動等取組みに参加している。運営推進会議には市役所の窓口担当職員の参加もあるため、事業所の取組みを見て頂く機会にもなっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームからも抑制拘束虐待委員会に委員として参加している。毎月、委員会に参加しており、身体拘束、禁止行為の理解を深めている。また、各事業所を回り、現場の視察も行っている。	法人の委員会にも参加し、委員会では言葉遣いや対応、動きを制限しない家具の配置等が具体的に検討され、毎月の職員会議で報告されている。リストを用いたチェックも行っている。苑全体で、虐待に繋がる事例は可能性も含めて防止する取組みが行われており、対応が難しい場合は事例検討会を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	抑制拘束虐待検討委員会に職員が参加しており、虐待防止の意識を部内で共有している。部内で虐待の手引きを用いて虐待防止に努めている。		

グループホーム たいめい苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、お一人の入居者が成年後見制度を利用しておられる。ご家族と成年後見人と連携を取りながら入居者の支援に努めている。今後も各種の制度についての理解を深める機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ケアマネジャーが契約を行っている。その中でご家族の要望、気になること、疑問等をお尋ねし、説明を行っている。要望などは介護計画書にも反映させている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、サービス担当者会議、運営推進会議、家族交流会などご家族の意見を伺う機会を設けて、グループホームの運営に反映させている。	面会やサービス担当者会議、家族会、茶話会等、入居者・家族と職員が関わる機会も設けられており、家族と職員が話す時間を設ける行事もある。各入居者の担当職員からは毎月家族宛に近況報告も作成されており、職員と家族の関係作りにもなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の個別面談、グループホーム部会議などで職員の意見を聞く機会を設けている。内容によっては上司にも報告し、運営に反映させるようにしている。	毎月の職員会議時を利用し職員からの意見を出し合い、話し合う機会としている。日頃の業務の中では入職間もない頃の声掛けや職員間での話しやすい雰囲気作りの様子も見られる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、職員は自己評価を行い、それを上司が評価している。また、運営会議でも職員ファーストについても検討を行い、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修への参加の機会があり、開催される研修を告知し、本人が希望する場合もあるし、上司が指名して参加する場合もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とのオリエンテーションや交流の機会もあり、ネットワークづくりを行っている。法人外の研修にも参加している。病院の連携室や居宅支援事業所も訪問し、関係性づくりに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたってはご本人は不安を多くお持ちなので、要望や不安、悩みなどお聞きし、信頼関係の構築に努めている。また、ご家族からもアセスメントを行い、情報収集に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にもご家族から不安、悩み、疑問等を伺い、把握、解決に努めている。入居後も様々な機会でのコミュニケーションを取り、ご家族が必要とされている事を見極めて、関係性の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	以前のケアマネジャーなどからも情報収集を行い、ご本人、ご家族にどのような支援が必要かを見極めてサービスの導入に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の能力を見極めて、できること、できないことを把握し、できることはご自分で行って頂いている。サポーターではなく、パートナーとしての関係性を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時にも、ご家族と職員で共にささえましようという声掛けを行っており、ケアプランにもご家族に協力いただくよう記載している。事業所とご家族で共に支えていける関係性を目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居された事で今までの馴染みの関係が途切れる事がないように支援している。先日も知人から昼食も食べたいとの要望があり、ご家族にも協力頂き、居室にて昼食を一緒に召し上がられた。ご家族も手土産をご用意されて喜ばれた。	近年、入居者の状況から支援は来訪によるものも増えてきている。友人等の来訪も歓迎しており、何より家族との関係が途切れない様支援を行っている。事業所では「今までの生活の継続」を大切にしたいケアを行っており、関係継続の支援も現状に合わせ取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者の中に入り、入居者同士がコミュニケーションが取れたり、落ち着いて過ごす事ができる環境となるように配慮している。		

グループホーム たいめい苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了されたご家族とも年賀状のやりとりを継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のコミュニケーションの中から好きな事、やりたいこと、こだわり等の把握に努めている。意思表示が難しい場合等はご家族から情報を得ながら、主体は本人である事を忘れずに検討している。	入居者の担当職員に関わらず、日頃の生活や寄り添いの中で把握を行っている。日常生活の記録により情報は共有され、必要に応じて介護計画への反映に繋がることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居に際しては、入居前の施設やご家族から情報収集を行い、今までの生活が継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族やグループホーム入居前の施設から情報収集を行い、ケアプランやフェイスシートに反映させるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月ごとのモニタリングや状態の変化があれば随時、カンファレンスを行い、課題解決に努める。ご家族もチームの一員と位置付け、要望等を伺い、ケアプラン作成を行っている。	3ヶ月毎のモニタリングや必要に応じてのカンファレンスは担当職員を中心に他の職員の意見も取り入れて行っている。家族の意見は面会等を利用し要望を聞き、意見を反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践など日常の記録に記載している。職員間の情報の共有については、日程表に記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他事業所の行事に参加したり、ご家族やご本人の急な要望にも柔軟に対応してニーズの実現に努めている。状況によっては予定を変更して対応している。		

グループホーム たいめい苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族、ご親戚、ご友人の方々がいつでも面会ができることで、グループホームでの生活が豊かで、充実したものとなるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人、ご家族が決められている。そのかかりつけ医と連携を取り、相談を行いながら必要な医療が受けられるように情報共有を行い関係性の構築に努めている。	入居者、家族希望の医療機関を受診できるよう支援している。協力医からは月2回定期的な往診がある。その他の医療機関受診の際は基本的に家族対応としているが、入居者の身体状況等により職員送迎を行い、家族立会いで受診するケースもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状態に変化があった場合は、グループホームの看護師または同法人の看護師に報告し、応急処置または病院受診の必要性を協議し、迅速に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合は当時、または翌日に看護サマリーを病院に提出している。お見舞いの際もナースステーションに立ち寄り、最新の情報を得ている。退院時もカンファレンスに参加し、スムーズに受け入れができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては契約時に内容の説明を行っている。ターミナルケアを希望された場合はグループホームでできること、できないことを身元引受人に説明を行い、手続きを行った後に情報交換、共有をしながら職員、ご家族で共に取り組んでいる。	実際にその時を迎えた際には、家族・医療機関等と連携して対応している。面会時のやり取りは日々の記録に残し、家族と事業所、関係機関と情報を共有している。日中は看護師が常駐しており、職員の勉強会への参加、職員間の協力と、全体での支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1度、部内で心配蘇生法の勉強会を行っている。また、環境製委員会を中心に部内の緊急連絡網の伝達訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回(5月、11月)に中間想定、夜間想定で避難訓練、通報訓練、消火訓練を行っている。入居者にも参加を頂いている。	防災訓練は昼間・夜間、その時の勤務人数で事業所単体、入居者参加で訓練を行っている。地震については発生を想定し、入居者と職員の動きを話し合い、共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月の部会の前に理念の唱和を行い、その中に掲げている尊厳について理解するようにしている。立派に社会生活を営まれてきた人生の先輩として敬い、接することを心掛けている。	理念、方針、就業モットーにより、職員として入居者ケアに臨む姿勢が浸透している。特に言葉遣いが不適切だと思われる際は個々に伝え、教育学習接遇委員会で勉強会も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中で、何を望んでおられるか等をお聞きしている。表現し易いような質問で引き出すよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員主導とならないように、入居者主体に努めている。入居者をご自分のペースで1日を過ごされることに心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回、出張の理髪があるので、ご希望があれば散髪を行っている。職員が髪染めを行う場合もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が外注となった為、以前のように下ごしらえをお願いする機会がなくなったが、食後のお盆拭きや食器洗いを職員と一緒にやっている。	昨年末より食事が外注になったものの、「できる間は出来ることをやって頂く」ことを継続している。また「温かさ」を感じる食事の提供も行っている。行事を利用したおやつ作り等、入居者の関わりもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量や水分摂取量をチェックしている。水分はお好みの物を飲んで頂いている。食事の摂取量が少ない場合は甘い物など好きな物を召し上がって頂くことで調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯洗浄、うがい、口腔ケアウエットガーゼで口腔ケアを行っている。ご自分でできる入居者には声掛けし、行って頂いている。		

グループホーム たいめい苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに排泄パターンの把握に努めている。その方の排泄パターンに合わせたトイレ誘導を行い、出来る限り、トイレでの排泄に心掛けている。夜間の尿取りパッドも尿量に併せて変更し、トイレ誘導を行っている。	排泄チェック表をもとに入居者個々の状況を把握している。夜間は睡眠を妨げないよう配慮し、量によるパットの選択・変更等、個別性を持たせた対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄を促すように水分調整、主治医からの緩下剤の処方、週1回のリハビリ体操への参加の声掛けを行っている。便秘ぎみの方には朝食のみそ汁にスプーン1杯のオリーブオイルをかけて召し上がって頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を決めて週2回の入浴を確保している。順番は決めておらず、柔軟に対応している。日曜日はフリーとして、入浴日に入浴されなかった方や入浴を希望された方の入浴できる日としている。	入居者の希望や状況により週2回以上を基本とした入浴支援を行っている。拒否が強い場合には無理強いをせず、その時々に対応で時間や日をずらす等で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や照明はご本人に確認して快適な環境となるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬に変更や注意が必要な副作用等があれば日常の記録に記載し、情報の共有を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、食器拭き、お盆拭きなどご自分の役割、楽しみとして定着しつつある入居者もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気のいい日などは軒先での茶話会や近隣公園への散歩に出掛けている。ご家族が食事にお連れされることもある。	近年入居者の希望も減ってきたのが現状であるが、買い物等、希望が出た際には担当者を中心に個別に対応している。季節毎の外出行事も計画され、花鑑賞や買い物を楽しむ機会も設けられている。日常的には隣接する公園への散歩や玄関先での茶話会等、外気を感じる工夫も行っている。	

グループホーム たいめい苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理をされている入居者はおられない。買い物や必要なものを購入する場合は預り金から支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に用件がある際に電話を使用される場合は、ご自分で掛けられる方、職員が掛けてから代わる方がおられる。自由に掛けられる環境にある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間となるように心掛けている。入居者によって居心地の良さは異なるので、状況を見極めながら対応している。季節ごとの飾りつけ等、季節感を感じて頂けるよう努めている。	明るく穏やかで温湿度も管理されたりリビングには畳敷きの小上がりもあり、洗濯物たたみ等、職員と共に過ごす入居者の様子もうかがえた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係性を把握し、快適に過ごして頂けるよう居場所づくりに配慮している。必要に応じては席替えも行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症の方にとって生活の継続性を重要と考え、ご家族にも相談し、使いなれた物や馴染みの物を持ち込んで頂き、グループホームを我が家のように感じて頂けるよう心掛けている。	洗面台も備えられた居室は畳敷きでも段差が無い造りになっている。入居前の環境を変えないよう、布団やベッドも持ち込みで、出来るだけ配置も入居前に合わせた環境作りが行われている。仏壇に毎朝お茶を備える等、個々の生活も大切にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示や居室のドアにご自分の名前の札を下げるなどして分かるようにしている。ベッドから車椅子に移り易いようにソファなどを置き安全に移れる様に配慮している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームかたらんお

作成日 令和元年12月 8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	イベントなどの外出は担当者を中心に実施できているが、日常のちょっとした買い物や散歩などの支援が不足している。	月2回のおやつ等の買い物や日常のちょっとした散歩に入居者と一緒に出掛ける機会を設けたい。	月2回のおやつ等の買い物は限られた入居者にはなるが一緒に出掛ける。必要に応じては他部所の協力を得て実施する。	12ヶ月
2	2	地域の方が来苑されることは多いが、入居者が地域に出向いて交流することは少ない。	地域の行事などの年間行事を把握し、入居者がご希望されたら積極的に参加したい。	地域の民児員を通じて年間行事を把握し、積極的に参加する。必要に応じて他部署の協力を得て取り組む。	12ヶ月
3	8	権利擁護についての勉強会など、理解を深める取り組みができていない。	部内勉強会として定期的な勉強会を定着させたい。	権利擁護の外部研修への参加や自己学習を行い、職員が講師となり、部内勉強会を実施する。	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。